



© UNICEF/NYHQ2008-0936/Noorani

奪われた子ども時代

ーザ・ヒンズー（インド）、2008年12月21日

子どもの保護

ミレニアム開発宣言では、子どもたちを軍隊、買春宿、災害、強制結婚、労働条件が劣悪な搾取工場、暴力から解放することを謳っているが、これは「安定したとき」のみに出される警告ではない。子どもの保護は、困難なときにこそ早急に必要とされる。子どもたちが見捨てられたり、人身売買されたり、家族の財政的な重荷を軽減するために労働に就かされたり、幼い花嫁として売り飛ばされてしまうようなときにこそ、保護が必要になるのである。

開発途上国に、社会サービスやセーフティ・ネット（安全網）のための資源がないと、子どもを守るという約束は果たせなくなる。同時に、先進工業国とドナー機関も、自らのポートフォリオ（有価証券）が急落するのを見守るしかなく、その多くは、財政面での約束を再検討せざるを得なくなっている。それでも、

人的災害も自然災害もやむことはなく、虐待、搾取の被害にあった人たちや、心的外傷を負った人たちを支援するには非常に大きな困難が伴う。

ユニセフは子どもと家族の保護に関して先導的な立場にあり、どんなときにも、保護環境を提供することを提唱している。2008年、ユニセフの執行理事会は子どもの保護戦略を承認し、ユニセフが予防に重きを置きながら、社会的、組織的な変革に向かって、より包括的なアプローチを強調できるようにした。ユニセフとそのパートナーは、子どもの権利条約、出生登録、少年司法改革、子どもの虐待と搾取の予防、ストリート・チルドレンの社会への統合と保護、子どもを傷害から守る制度的な変革の実現を提唱している。

危機の際、つまり、すでにぎりぎりの状態で保たれている社会基盤がさらに苦しくなったとき、最も弱い立場に追いやられるのが子どもである。2008年、ユニセフは数多くの緊急事態下で支援を主導したり、これに参加した。2005年に始まったクラスター・アプローチは、人道支援事業を調整する主要なメカニズムとなっている。ユニセフは、栄養、水、衛生と衛生教育の面において、クラスターの中で主導的な役割を担っており、緊急事態下での教育については、インターナショナル・セーブ・ザ・チルドレン・アライアンスと共に、支援を協同で行うことになっている。

紛争

人間が「違い」を平和的に解決することに失敗したとき、子どもと家族は、いつもその犠牲になる。2008年、すでに貧困という重石の下で喘いでいた国々——アフガニスタン、コンゴ民主共和国、イラク、パレスチナ自治区——が、継続的な武力紛争にうちのめされた。ユニセフは、クラスターに参加する機関を招集し、子どもと女性たちに、食料、シェルター（避難所）、安全な飲み水、衛生用品、衛生機器、緊急時下の教育、心理的なサポートを提供した。

2008年、新たに紛争が起きた地域もあった。ケニアでは、2007年12月の国政選挙をきっかけに近隣で暴動が起きた。2月下旬に平和が戻ってきたときには、約1,500人が命を失い、40万人以上が避難民となっていた。内紛が起きている間、そしてその直後、ユニセフは、人々の生命を救う基礎支援物資を提供し続けた。

8月、グルジアとロシア連邦との間で起きた武力紛争のために、15万人以上が避難民となり、グルジアでは大混乱が起きた。ユニセフは、多くの機関を巻き込んで支援を調整し、緊急用のシェルター、食料、保健ケア、水、衛生、衛生教育を提供し、心理社会的な影響の大きさを調べた。

災害

2008年、多くの自然災害が子どもと家族たちの生活を襲っ

た。ユニセフは中国、パキスタンで起きた地震、エクアドル、インド、ラオス、モザンビーク、ネパール、ザンビアで起きた洪水、マダガスカルとミャンマーでのサイクロン、ギニアビサウとジンバブエでのコレラの流行、ハイチでのハリケーン、エチオピアでの干ばつに対応した。

中国四川省で発生した大地震は8万8,000人の命を奪い、1億2,000万人以上の生活に影響を及ぼした。ユニセフは国連機関としては真っ先に四川省文川県の被災現場に入り、国連災害管理チームを主導し、生存者たちに対し、支援物資や心理社会的サポートを提供した。

2月、マダガスカルは2つの大型サイクロンに見舞われ、東海岸に住む3人に2人が甚大なる被害を受けた。マダガスカル其自然災害支援の一部として、初めて子どもの保護についての対策が盛り込まれた。これにより、ユニセフとそのパートナーたちは、災害の影響を受けた子どもにも、影響を受けていない子どもに対しても、保護を推進することができた。

アドボカシー

2008年、ユニセフは子どもの保護のための包括的なキャンペーンに参加した。具体的には、スーダンの少年司法への取り組み、ジャマイカでの銃規制の推進、ジンバブエでの子どもの虐待に反対する国内キャンペーン‘Stand Up, Speak Out’（立ち上がってはっきり意見を言おう）の後援、南アジアでの人身売買に関する主要な報告書の発行、ユニセフの事務局長が訪問してアルバニアのロマ民族の子どもたちの困難な状況について人々の関心を集めるといった活動を行った。

11月、ブラジル政府、国際ECPAT、子どもの権利のためのNGOグループ、そしてユニセフは、「第3回子どもと青少年の性的搾取に反対する世界会議」を主催した。この3日間にわたるリオデジャネイロでの会議には、125カ国から3,000人が参加し、子どもの人身売買、ポルノ、買春、レイプ、虐待の状況を分析し、これらとどのように闘っていくべきかを討議した。



© UNICEF/NYHQ2007-0004/Kamber

世界で一番 危険な場所

2008年、ソマリアでは暴動が急増し、1990年代初頭以来見られなかった内戦にまで発展した。2008年だけで、支援団体のスタッフ33人が命を奪われ、26人が誘拐された。命を落とした人のうち8人は国連の職員で、ひとりとは長期にわたってユニセフのコンサルタントとして働いてきた人だった。

ソマリアは世界の最貧国のひとつで、世界的な食糧価格の高騰の煽りを受けた。農作物の生産量は平均以下で、燃料高騰、極度のインフレ、打撃を受けた市場が原因で、食料の中には価格が400パーセントも高騰したものもあった。325万人以上が支援を必要とし、これは2008年1月より77%の増加となっている。また、推定18万人の子どもたちが急性の栄養不良状態にある。

悲惨な状況に関わらず、ユニセフとその世界的パートナーたちは、ソマリアの子どもたちの生活改善のために並外れた前進を果たし、子どもたちを保護する環境を作り上げる努力をした。

栄養分野で主導的な立場にあるユニセフは、パートナーである40の常設機関の革新的な仕事を調整した。栄養不良は簡単に悪化する恐れがあるため、防止策として「ブランケット・フィーディング」（栄養不良の如何に関わらず、栄養不良に陥っていると思われる、あるいは陥る可能性がある特定ターゲットの世帯や地域に食料を提供すること）を導入し、2008年には、すぐに口にできる栄養補助食（RUTF）、水と基礎保健ケアを、国内避難民キャンプに住む子どもたち62,000人以上に提供した。

子どもの保健デーでは、ビタミンA補給と共に、2回にわた

るポリオ・キャンペーンを展開し、5歳未満児145万人を支援した。さらに虫下しを追加した同様のポリオ・キャンペーンでは2～5歳の子ども100万人に予防接種を行うことができ、接種率90%を超えた。さらに、勇敢な支援ワーカーたちは、避難民、あるいは紛争の影響を受けたり、困難な状況にある200万人に対して、基礎保健ケアを提供し、蚊帳を利用する人たちの間のマラリアの感染率を17%から6.9%にまで引き下げた。また、5歳未満児のはしかの感染例を2003年の8,200件以上から2008年には416件まで下げることに成功し、食料センターは138から235カ所まで増加した。ソマリアは2007年3月以来、ポリオの感染例がない。これは多くの困難に直面する中で画期的な成果である。

ユニセフは、ソマリアの若者たちのリーダーシップ力にも投資している。若者向けのイニシアティブとしては、1,080人の女子を対象としたリーダーシップ研修、2,500人の若者に対するメディア・スキル研修、73人を対象にした研究・政策開発がある。若者が率いる事業には、メディア・センター、読者36,000人の若者向け雑誌“KOOR”、ウェブサイト<www.hellosomaliyouth.net> などがあり、サイトにはソマリアの未来の指導者となる若者たちから800を超える書き込みがあった。

危険なときでも、支援に携わる人たちは怯まなかった。今日、救うことができた子どもたちは、明日の平和と繁栄への希望になる可能性があることを理解しているからである。